

研修ガイド

防災ワークショップ・学区(地震)編

50分

地震が発生した場合に起こり得る学区内の危険とそれに対する事前対策、指導を考える

1 ねらい

- ① 学区の特徴や地域の実態を知り、課題や避難場所等を把握することができるようにする。
- ② 地震が発生した場合に起こり得る学区内の危険とそれに対する事前対策、指導について考察することができるようにする。
- ③ 防災ワークショップを通して、全教職員が参加し、防災意識、防災対応能力の向上につなげることができるようにする。

2 流れ

- ① 想定した状況、学区内地図の確認
- ② 地図の見える化
- ③ 「考えられる危険箇所」等の書き出し、発表、話し合い
- ④ 「対策・指導」等の書き出し、発表
- ⑤ 付箋のグループ化、まとめ
- ⑥ 全体シェアリング

3 準備物

- ・研修会進行資料……ファシリテーター進行表、進行スライド、グループ進行表、ワークシート、学区内地図、模造紙、付箋(2色)、フェルトペン3色(黒、赤、青など) ほか
- ・必要に応じて……ハザードマップ、通学路マップ等
- ・参加者……筆記用具

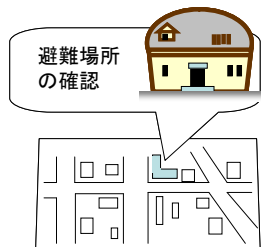
4 準備のポイント

① 学区内地図

- 学区を含む地域を表した地図を活用します。その他として通学路マップ、市街地地図等も活用できます。ウェブサイトでは、「<http://latlonglab.yahoo.co.jp/4x3/>」が便利です。様々なサイズによる地図印刷が可能です。A1サイズ程度に拡大すると、付箋を貼りやすく、まとめやすくなります。
- 必要に応じて、資料として各市町村の「ハザードマップ」(「国土交通省ハザードマップポータルサイト」より全国の市町村の閲覧が可能)や各学校で作成した「通学路マップ」等を活用します。さらに具体的にイメージでき、研修が深まります。

② 付箋

- 付箋を使う活動が2つあります。付箋は2色準備し、色分けをします。



5 活動内容のポイント

- ① 「地震編」ですが、同じような流れで台風・雪など他の自然災害の想定に置き換えても、実施することができます。
- ② 本ワークショップ後に、自然災害発生時における学校の対応や取るべき行動について話し合うこともできます。(「はじめよう『防災ワークショップ』」, 3「防災ワークショップ」次のステップを参照)
- ③ 震災の経験を思い出して心身に不調を来す場合もありますので、参加者の様子などを観察し、配慮をお願いします。児童生徒等に指導する場合も同様をお願いします。

6 児童生徒等への指導・家庭、地域等との連携について

① 児童生徒等への指導 → 防災ワークショップ・通学路編と関連して指導もできます

指導例	活動内容
外で地震が起きたら	○同じ流れで児童生徒等に工夫して指導します。 ・学区内地図を用いて、通学路やよく遊びに行く場所等で、自然災害が発生した場合の「考えられる危険」とそれに対する「対策、行動」について考える。

② 家庭、地域等との連携

連携例	活動内容
学区内の危険を知る	○同じ防災ワークショップを保護者や地域住民等と行います。児童生徒等も一緒に行えます。 ・親子で本ワークショップを行い、学区内の危険と「対策、行動」について考える。 ・自治会、PTAと危険箇所を確認し、自然災害が発生した場合の「対策、対応」を考える。